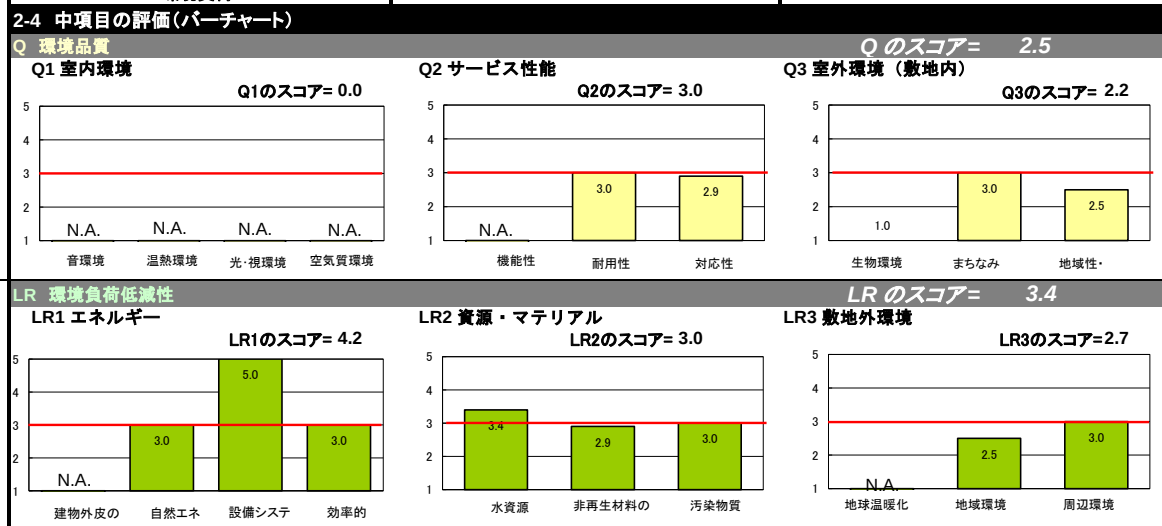
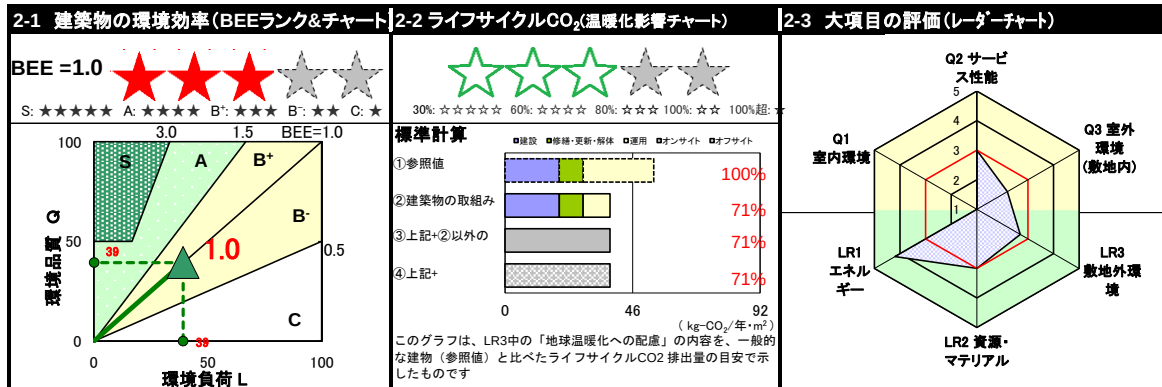


1-1 建物概要					1-2 外観	
建物名称	小島プレス工業㈱豊橋工場		階数	地下0階地上2階		
建設地	愛知県豊橋市明海町3－50		構造	S造		
用途地域	工業専用地域		平均居住人員	20 人		
気候区分	7地域		年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	工場		評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2025年12月 予定		評価の実施日	2025年2月18日		
敷地面積	19,835 ㎡		作成者	廣田 龍平		
建築面積	6,084 ㎡		確認日	2025年2月18日		
延床面積	6,863 ㎡		確認者	平井 理基		
						



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
N.A.	1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		33.5 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
2.9	1.0	＜外装材に使用した地域性のある材料＞
		なし
		＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
小島プレス工業株式会社

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.5		
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-			
1.2 遮音				-	-	-	-			
1 開口部遮音性能				-	-	-	-			
2 界壁遮音性能				-	-	-	3.0			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	3.0			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	3.0			
1.3 吸音				-	-	-	3.0			
2 温熱環境										
2.1 室温制御				-	-	-	-			
1 室温				3.0	-	-	3.0			
2 外皮性能				3.0	-	-	3.0			
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-			
2.2 湿度制御				3.0	-	-	3.0			
2.3 空調方式				3.0	-	-	3.0			
3 光・視環境										
3.1 昼光利用				-	-	-	-			
1 昼光率				3.0	-	-	-			
2 方位別開口				-	-	-	-			
3 昼光利用設備				3.0	-	-	3.0			
3.2 グレア対策				-	-	-	-			
1 昼光制御				5.0	-	-	-			
3.3 照度				3.0	-	-	-			
3.4 照明制御				3.0	-	-	3.0			
4 空気質環境										
4.1 発生源対策				-	-	-	-			
1 化学汚染物質				3.0	-	-	3.0			
4.2 換気				-	-	-	-			
1 換気量				3.0	-	-	3.0			
2 自然換気性能				3.0	-	-	3.0			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	3.0			
4.3 運用管理				-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-			
Q2 サービス性能					-	0.43	-	3.0		
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-			
1 広さ・収納性				3.0	-	-	3.0			
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	3.0			
3 バリアフリー計画			独自	3.0	-	-	-			
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-			
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	3.0			
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-			
3 内装計画				3.0	-	-	-			
1.3 維持管理				-	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性				0.5	3.0	0.52	-	3.0		
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-			
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-			
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.0	0.33	-			
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②	-	3.0	0.23	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	2.0	0.23	-			
2.4 信頼性				0.1	3.2	0.19	-			
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-			
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-			
3 電気設備			②	3.0	3.0	0.20	-			
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-			
5 通信・情報設備				3.0	5.0	0.20	-			
				給水管(PEP=B)、排水管(VP=B)、消火配管(配管用炭素鋼管(白)=C)を採用。						
				評価する取り組みを4つ行っている。						

給水管(PEP=B)、排水管(VP=B)、消火配管(配管用炭素鋼管(白)=O)を採用。

評価する取り組みを4つ行っている。

3 対応性・更新性			0.4	2.9	0.48	-	-	-	2.9
3.1 空間のゆとり			0.3	3.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			-	3.0	0.60	-	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	2.8	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	2.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.38		3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器の採用。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.9	0.63	-	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②		-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	ー 路盤材料に再生クラッシュアスファルトを採用。	3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		3.0	3.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率71%	-	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			0.5	2.5	0.50	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		評価する取り組みを行っている。	-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいも版手引き

小島プレス工業株式会社

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:33.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 小島プレス工業(株)豊橋工場

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 周辺環境との調和性に配慮した新工場の計画としている。また、敷地内の緑地帯を極力残す様にしている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備配管やダクトは更新世に配慮した材質を採用し、衛生器具については環境に配慮した節水型便器を採用している。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地外周部に緑地帯を設けている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 エネルギー消費量のモニタリングを行う運用管理体制が整っている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 自動水栓及び節水型便器を採用している。ODP=0の冷媒を採用している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地導入路の幅を十分に設け、駐車場及び荷捌用車両のスペースも十分に設けることで、周辺交通負荷の抑制を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。